
本命は...?

真衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本命は…？

【Nコード】

N1798A

【作者名】

真衣

【あらすじ】

だ・誰夢でしょうか？一応ある人のために書きます。

「ラビ！！！！」

母さん、ウサ耳！！！ウサ耳持ってきて！！！！

あ、犬耳でも良いやvvどっちでも良いから持ってきて、あとカメラー！！（落ち着け

「ど、どうした波音？（汗

オレ、何にも持ってきて無いけど・・・？」

そんなに眼を輝かせながら見つめるのは止めて……
理性が持たない……（待

「うっん。何にも要らない！！」

強いて言えばカメラと獣耳。（をい

「そ、そっか……」

「うん!! あ、花畑に行ってみたい!!」

あと、商店街に行ってカメラ買って、獣みm（以下省略

「花畑はムリだろう。今、冬なんだぞ？」

「じゃあスキー場行ってスノボしよ!!」

あ、スキー場に売店あるのかな……?（売店の心配か
あ、あとスキー場も（スキー場はオマケか

「そりゃ、オレは別にかまわないけど……?」

「ヤッタ♪じゃ、早速行こつー!」

波音はラビの手を引きながらそう言った。

「あ、ああ／＼／＼可愛い・・・」

「ちゅむっ。」

「アハハッ 波音は寒がりなんだな。」

「まあ、そうなのかも。。。寒い」

「そんなに寒い？教団に戻るっか？」

「でも、戻っても遊ぶもの無いじゃん」

「王様ゲームとか・・・？」

「アンタツ・・・!!」

「そんな。コ。のお決まりゲーム（実際はどうか知らないけど）を提案するな!!」

「あれ・・・？イヤ、だった？」

「うっ……ダ、ダイジヨブ。嫌じゃないよ。」

そんなにシュンとなって私を見るな。理性が持たん（こっちもか

「じゃ、帰ってやろっvv」

「……そーだね」

「暖かいvv」

「波音って猫みたいだな。」

「・・・何処が？」

「ん、なんかそんな感じ。寒いのが嫌いだし。暖かいのが好きだし。」

「オイオイ・・・猫か否かを温度で決めるな・・・」

「波音がそう言おうとした時」

「あと、自由って感じがするからかな。」

「自由？」

「そ。オレが持っていない様な自由を波音は持つてる。」

「うん・・・・・・・・よく分からない。。。」

「なんか・・・・・・・・さ。どっか行っちゃいそうなんだよな。
オレが近くにいて見ていないと消えちゃうんじゃないかって思う。」

監禁好きかお前は。（どーしてそう言う風に考える……）

ソファに寝転んで手を頭の後ろに回して、ラビが続ける。

「いつも笑ってる波音が笑わなくなったら凄く不安になるし。
逆に、波音がいつも笑っていると凄く安心する。」

でも、オレはそんな波音が好きなんだと思う。」

「・・・ハイ？」

「／／／もう言わないからな。」

「えゝ！！！もう一回言ってよ！！！」

「／／／そうだなあ．．．．．じゃあこっち来てみ。」

ラビは組んでいた手を外し、波音を手招きする。

「はい．．．ッて！！」

「捕まえたVV」

ラビは波音をソファの上に寝転ばせた。

「ギャー！！何すんのアンタは！」

え、コレって乙女のピンチってヤツですか？

私、押し倒されちゃったりしてるんですけど……

「何って……さっき言ったの教えて欲しいんだろ？」

「お、教えて欲しいけど、押し倒されてまでは……」

「波音……」

「愛してる今までもずっと、これからずっと——」

ラビはそう言つと波音の上からどいて、起き上がらせてから後ろから抱きしめた。

「ラ、ラビ……？／＼／」

「……が終わつたら。」

「え？」

「この戦争が終わつたら、ずっと傍にいてくれな……。」「

一気に其処まで飛ぶかい兄さん。

「……………うん。」

「……………ホントに？」

「約束する。傍にいろって」

「~~~~!!波音——VV」

「ギャー!!」

- - - - -

金色のアトガキ

・・・全部の話を読んだ方はきつと思うでしょう。

Dグレだけ何で全部イチャついてんだ。と（笑

しかもTORは恋愛要素ほぼ皆無（待って

だって（言い訳開始）、テイルズシリーズは3作出してるから、いいかな。。。なんて；；

や、絶対に差別とかじゃないですよ！？

あ、因みに、最後の詩みたいなのは、ELTのgood night聞きながら書いてたのでシリアスっぽいです。

あの歌、泣けますよね（何で！？）

それでは、最後になりましたが此処まで読んで下さりありがとうございますございましたvv

2005.7.7

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1798a/>

本命は...？

2010年11月1日10時00分発行